

## 社 報



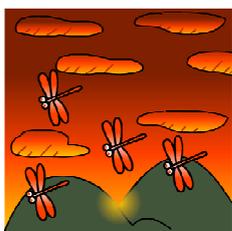
## 人のやらないことをやる

## 清水建設:改善事例発表会

毎年開催されています、清水建設の改善事例発表会ですが、今年、「組合せシステム型枠「ガッチ」の開発」で、応募いたしましたところ、優秀賞に選定されたと、連絡をいただきました。イングループKANEKI21  
日時 11月9日(水) 13:30～  
場所 朝日生命ホール8階  
発表させていただきます。



高槻中高(基礎)



東京工業大学、大隅良典栄誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。同じ日本人として、心からお祝いを申し上げたいと思います。受賞された研究の難しい話は、どうして私などにはわかりません。

しかしながら、受賞後の報道を見ると、大隈先生の偉業を知ることができます。

ノーベル賞には、いろいろな賞があるようですが、生理学・医学賞は、その分野で「最も重要な発見した人に、」与えられる賞で、他の人の研究や成果に改良をほどして大きな成果をあげても与えられることがない、最も授賞条件が厳しい賞とされているようです。

大隅先生が、オートファジーの研究を始められたのは、今から28年も前のことで、関係する論文の発表も極端に少なく、研究している人はほとんどいなかったとのこと。

そうした人のやらない分野で、もくもくと28年も研究を続け、成果を挙げられたことは、大変な偉業であると思います。

研究者と言えども、新しい分野で、どっちに向かっていけば良いのかもわからない状態に身を置き、成果につながるかどうかもわからない研究に、人生を費やすのは、並大抵のことではないと思います。

「人のやらないことをやるのが、私の推進力だった。」未知の荒野に1人で挑み、開拓していった研究人生。

私達凡人には、なかなかマネのできることはありません。凡人はすぐに群れて、大勢の中に埋もれようと、趣味や遊びは他の人も大勢がやっていることだと、そういうことはすぐにマネをしてしまいます。

一度しかない人生を、周りに歩調を合わせて、可もなく不可もなく、楽しむことだけを考えているようでは、企業人としては失格です。

偉大な発見は大隈先生のような、偉人にしていただけたらとして、我々も身近なところで、業務の改善を行い新しいアイデアで、次の時代へ挑戦していかねばなりません。

企業が長く存続するためには、ナイスストライが必要なのです。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

## 不休災害 と 交通事故

2016年8月19日(金) 13:20頃

高槻中高の現場で、外部足場から建屋内に入ろうとして、仮設通路の階段を踏み外し、500mm下のスラブに着地したときに足首をねん挫した。

被災者:稲畑二千翔

職種:型枠大工

経験:5か月

休業:なし

2016年10月1日(土) 7:40頃

現場駐車場、駐車スペースに入ろうとして、後方の車に確認不足でぶつめた。

運転者:森満郁弥

被害状況:当方・先方も物損事故

今月は事故がありませんように。(拝)

## 2016年 安全成績

## ■現場災害 H28.1.1-H28.10.9

休業災害 ----- 0

不休災害 ----- 1

物損災害 ----- 0

その他 ----- 0

合計 ----- 1

## ■交通災害 H28.1.1-H28.10.9

人身災害 ----- 0

物損災害 ----- 1

合計 ----- 1